MJ Audio Brand Around

第7回

MJオーディオブランド・アラウンド

ヴィヴラボラトリー

井上千岳 INOUE Chitake

フルレンジシステムでスタート

ヴィヴラボラトリーは何度か誌面に登場しているので，ご記憶の方も少なくないと思うが，非常に新しく，またユニークなブランドである．

正式にはViV Laboratory株式会社といい，主宰するのは取締役社長の秋元浩一郎氏である．因みにViVはvivace（伊：ヴィヴァーチェ）の略で，vividの意味もあるというが，またvivaも意識しているそうだ．

鎌倉の散在が池（鎌倉湖）にもほど近い，今泉台の閑静な住宅街の一角に自宅を兼ねた試聴室を設け，またそこが工房にもなっている．

初めての製品evanui signatureスピーカーシステムを聴いたのは2008年のことであったと思うが，何から何まで異例尽くしの製品であった．

まずドライバーは純マグネシウム振動板で，口径わずか8cmのユニットひとつ．つまりフルレンジで，その代わりエンクロージャーは大きなバックロードホーンになっている．再生レンジがきちんと確保できるフルレンジシステムはおそらく初めてだろうし，また現在でもほかに例はないかもしれない．

その振動板には，ダンパーもエッジもない．特殊なオイルによって浮いているだけなので，制動は専ら磁気回路によることになる．機械的な制約がかからないその動作はきわめて自由で，歪みやモジュレーションが生じない．この構造はFDM（フローティング・ダイヤフラム・メカニズム）と名付けられて，特許も取得済みである．

このevanui signatureはマークⅢとなって，振動板も直径15cmのコルゲーションタイプに変わり，磁気回路も強化されていっそう特性を向上させている．またブックシェルフに相当するevanui μと一般的なフロア型であるevanui PRIMAも発売されたが，現在はモデルチェンジ中である．

アナログ再生にも参入

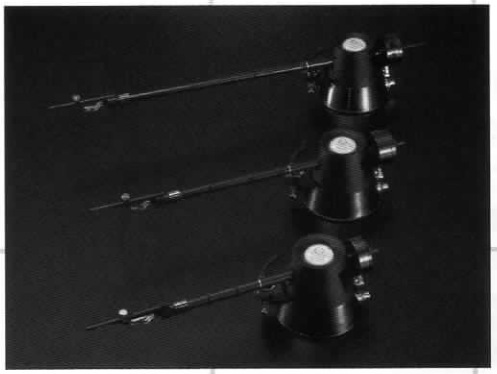
さてエッジレスでダンパーレス，ついでに言うとフルレンジなのでネットワークレスでもあるこの独創的なスピーカーから2年ほどして，今度はアナログ関連に常識を覆すような製品が登場した．同社の名を現在のように広めたのは，むしろこちらのほうであるかもしれない．トーンアームRigid Floatがそれである．

ストレートアームだが，先端には普通のユニバーサルシェル用のチャックが付いている．しかもオフセット角はない．それだけならまだしも，根元には固定された支点というものがなく，ただオイルに浮いているだけだ．その先にはカウンターウエイトが，ごく当たり前のように嵌っている．

奇抜といえば奇抜，斬新といえば斬新だが，その構造の意味を当初どれだけの人が理解しただろうか．単なるオイルダンプと勘違いされたこともあるというから，その発想はよほど翔んでいたのだろう．

そもそも根元がふらふらと揺れていては，針先が正

evanui signature Ⅲは花のような振動板を持ち，ボイスコイルなどを特殊オイルで支持している．エンクロージャーは積層合板製のバックロードホーン



Rigid Float/Haはオフセット角なしのストレートアームで，支点部分を特殊オイルで浮かせることにより，針先が自動調芯されるしくみ．長さが3種類ある

Nelson Holdは，カートリッジを羽交い締めにして強固に固定するヘッドシェル．指掛けが先端にある

オーディオエキスポの自作スピーカーコンテスト出展で注目を集め，起業したヴィヴラボラトリーは，独創的アイデアを具現化するユニークなメーカーである．ここから生み出される製品に込められた柔軟で斬新なアイデアは，キャリアの長いオーディオファンから見れば「常識はずれ」であるかもしれないが，そこから再生される音楽に触れれば，正しい手法であることが理解されるだろう．

●資料請求先
ViV laboratory株式会社
〒247-0053
神奈川県鎌倉市今泉台5-10-16
www.vivaudiolab.com/

しくトレースするはずがない．そう考えるのがオーディオファンの常識である．しかしさらに深く考えてみると，カートリッジの針先というのはそんなに不安定なものなのかという疑問に行き着く．

たとえばクルマのタイヤは，放っておいても真っ直ぐ進むように調節されている．針先もこれと同じで，音溝の左右から受ける力によってカンチレバーを常に音溝と平行になろうとする．だから，支点がないとあちこちに向いてしまって正確なトレースができなくなるということはなく，神経質に考える必要はないのである．

それは実際このトーンアームを聴いてみればわかるが，トレースに不安がないばかりか，精密でエネルギーに富んでいるのが明らかだ．ユーザーの間でも論より証拠，聴いてみてその正しさを実感した人が増え，じきにベストセラーとなっていった．ヴィヴラボの名をこの製品で知ったというオーディオファンも，少なくないはずである．

Rigid Floatはその後細かな改良を加え，現在はRigid Float/Haとなって長さも3種類が用意されている．

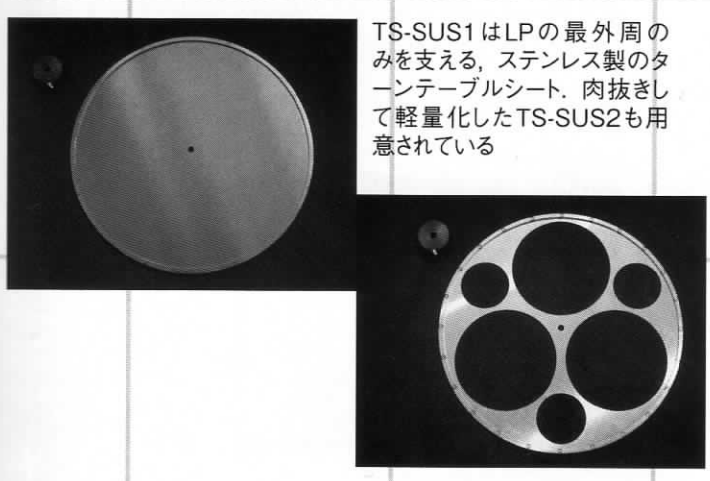
このほかにもアナログ関係のアクセサリーで，ユニークな製品がいくつか開発されている．ひとつはヘッドシェルで，Nelson Holdという．

アルミ製で指掛けが横ではなく先端へ伸びているのを除けば，ある意味で一般的な形である．しかし普通と異なるのは締め付け方で，通常の2本のネジのほかにカートリッジの背中を押す形のネジが装着されている．「ネルソンホールド」というのは羽交い絞めのことだが，2本の腕で締め上げるだけでなく，背中に膝を押し付けた形と同じだ．これだと締まり過ぎて軟弱なカートリッジだと割れてしまいそうなくらいだが，ロングセラーで知られる往年のMC型カートリッジが見違えるほどくっきりとして引き締まった音になったのには驚いた．ヘッドシェルでこれだけ音が変わることは大変珍しい．

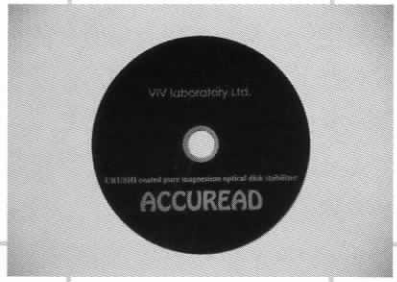
もうひとつ，ターンテーブルシートTS-SUS1はさらに独創的だ．材質はステンレス，最外周のグルーブガード部分だけでレコードを支持する形状で，レコードの大部分は浮いているのである．また底部は3個の真鍮ボールで点接触とし，メカニカルアースを徹底している．

これではペラペラのレコードが鳴き放題と思われるのが普通だが，使ってみるとそういうことはない．逆に固有の共振がなく，ターンテーブルからの影響も受けず，出てくる音はいたってニュートラルだ．

ヴィヴラボラトリーの製品は決して多くはなく，おおむね以上のような状況だが，どれも逆転の発想ともいえる独創的なアイデアで作られているのがわかる．そして，それが単なる思いつきではなく，確実な音質の裏付けに支えられたものであることに注目したい．一人の人間の頭脳からよくこういう考えが出てくるものだと不思議にさえ感じるほどだが，まだまだ同氏の発想は尽きないようだ．今後とも目の離せないブランドである．



TS-SUS1はLPの最外周のみを支える，ステンレス製のターンテーブルシート．肉抜きして軽量化したTS-SUS2も用意されている



ACCUREADは，純マグネシウム板に漆を塗ったCDスタビライザー．厚さ0.2mm，重量5g